

茨城県地球温暖化防止活動推進員 第1回全体研修会を開催しました

～All Japan Youth Eco-clubによるSDGsワークショップ～

9月3日にホテルレイクビュー水戸において推進員全体研修会の第1回目を開催しました。2部構成で、第1部がワークショップ、第2部が「クールアースいばらき2020大会」(1頁に掲載)で、推進員や行政担当者など80名の参加がありました。

ワークショップでは、昨年が続いて公益財団法人日本環境協会のご協力のもと、こどもエコクラブOB、OGを中心に構成され、持続可能な地域及び社会づくりを目指すAll Japan Youth Eco-clubに講師を務めていただきました。メンバーは、東京から坂田悠綺氏と惟仁氏の姉妹、同じくAll Japan Youth Eco-clubメンバーである地元の逆川こどもエコクラブOB川島登史宗氏、高橋克英氏、齋藤翔生氏、小島大知氏の6名で、若き実践者からワークショップを学びました。

最初にAll Japan Youth Eco-club「ユース世代と環境活動」と題して発表していただきました。当団体は、日本環境協会が事務局を務めるこどもエコクラブへ登録されているクラブユースで形成されており、概ね大学生以上30歳未満の若い世代が協働し、こどもエコクラブのサポートや環境イベントへの参加や交流を重ねています。坂田さん姉妹は、生まれ育った広島県でこどもエコクラブ活動をしていたこと、当時から本県の逆川こどもエコクラブと全国フェスタ等で一緒にエコ活動をしていたことなどに触れ、社会人になるにつれ、こども世代からの環境教育の重要性を実感してきたことや、全国10万人のこどもエコクラブの子どもたちのお手本になる使命感など、参加いただいた多くの推進員と同じ意識にあることを感じる内容でした。

その後は、6人のメンバーが講師となって、ワークショップを行いました。各テーブルを1つのグループとして、12グループが作られ、グループ員同士の自己紹介から始まりました。その際に、発表者と書記を決め、用意された模造紙に各自の名前を書きました。

次に、ワークショップ①としてSDGs流れ星チャレンジを行いました。先ほどの模造紙に、流れ星や、地平線、家、木、太陽を各自が描いていきます。そしてそれぞれが描いた絵について説明、書かれた絵は各人各様。このワークショップの目的は、他人の説明に耳を傾け、自分と他人の違いを認めること、すなわち多様性の尊重を学ぶことでした。

ワークショップ②は、SDGsの17のゴールのうち、6つの目標(6 安全な水とトイレを世界中に、7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに、12 つくる責任使う責任、13 気候変動に具体的な対策を、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさを守ろう)の中から、各グループに1つ目標が割り当てられ、グループのみんなで何ができるかを話し合い、発表しました。

今回の研修会では若い力が積極的に取り組む姿を見て、とても頼もしく感じました。継続なしにSDGsの達成はないことを共有する素晴らしい研修会でした。

